

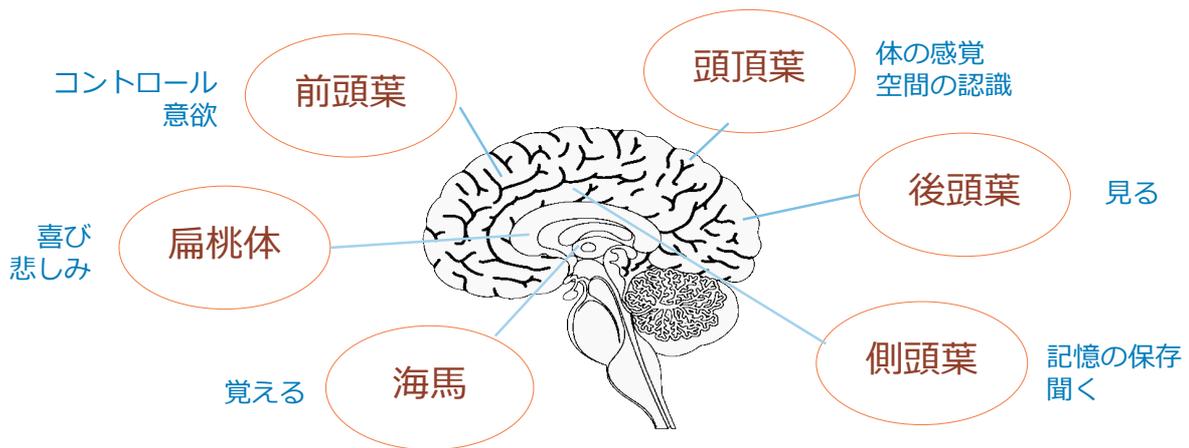


認知症とは？

脳は、人間の活動をコントロールしている司令塔です。
認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったりして、
脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障害が起こり、生活
する上で支障が、およそ6カ月以上継続している状態を指します。

脳のはたらき

脳は場所によって、それぞれ異なる機能を担っています。



認知症を引き起こすおもな病気

アルツハイマー病 (約50%)

大脳皮質連合野や海馬領域を中心にβアミロイドというタンパク質のゴミ、続いてタウタンパクが神経細胞内に蓄積し、神経細胞のネットワークが壊れると発症するといわれています。

レビー小体型認知症 (約15%)

パーキンソン症状や幻視を伴い、症状の変動が大きいのが特徴です。

血管性認知症 (約15%)

脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れて、意欲が低下したり複雑な作業ができなくなったりします。

前頭側頭型認知症

司令塔役の前頭前野を中心に傷害されるため、がまんや思いやりなどの社会性を失い、「わが道を行く」行動をとる特徴があります。

- このほかに、クロイツフェルト・ヤコブ病、AIDSなどの感染症や、アルコール中毒も認知症の原因となる病気です。
- 脳腫瘍や慢性硬膜下血腫、甲状腺疾患など、治療可能な疾患により認知症の症状が表れることがあります。